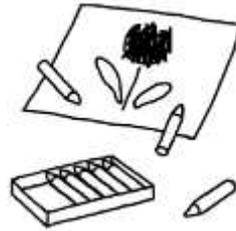


坐禅会のご案内

12月1日(土) 17:00~18:30
どなたでも参加いただけます。
(参加費無料・要申込)



大きな里芋の葉っぱがゆったりと揺れ、
稲刈りを終えた田にはサギが遊んでいます。
心地よい行楽日和が続くこの頃、皆様お変わりありませんか。

さて、12月8日はお釈迦様がお悟りを開かれた大切な日です。
この日を仏教では「成道会(じょうどうえ)」といい、
お釈迦様のお生まれになった日や お釈迦様がお亡くなりになった日と並び
大切にされています。

「私ほど幸せを求めた者はいまい」
王子という身分に生まれ、
何不自由なく暮らしていたにもかかわらず、
お釈迦様は自分が幸せに生きるための方法を
修行を積んで模索しました。



「どうしたら人は幸せに生きることができるのか。」

二千五百年前にお釈迦様が仏教を開かれた目的
仏教とは、悩み苦しむ人が、幸せに生きていくために説かれた教えなのです。
言い換えると、お釈迦様が残された「幸せになるための道しるべ」です。



お釈迦様は「悟りを開くまでは決してここを動くまい」と
決意されて、12月1日から菩提樹の根元で坐禅を組み
7日間不眠不休で瞑想されたと伝えられています。
そして8日目、暁の明星を見て大悟されました。
私達禅宗は、このお釈迦様のお悟りと寸分違わぬ体験を
個々人が坐禅を通して体得することを旨とします。

大本山妙心寺の掲げる生活信条にも、
第一に「一日一度は静かに坐って 身と呼吸と心を整えましょう」とあります。
坐禅の方法さえわかれば、どなたでも、どこでも坐禅に取り組むことができます。
自分の生活の中で一日一度、お線香が一本燃え尽きるまでも、15分でも、
坐禅を取り入れるきっかけになればとの願いから、
仏教が生まれた12月8日にちなみ
大智寺では毎年12月第一土曜日の夜に、初心者向け坐禅会を行っています。

この坐禅会は
皆様に坐禅の作法をお伝えし、
休憩を間に入れながら、無理なく坐禅を行うという
年に一度の初心者向けの坐禅会です。
難しく考えず、気楽にご参加ください。



まず坐ってみて、自分が感じた空気を自宅に持ち帰り、
自分の生活に坐禅を取り入れてみてください。
夜寝る前にベッドに腰かけて、または朝一番のリビングで、通勤電車の中でも、
どんなシチュエーションでも心次第で坐禅はできるようになります。

大智寺だより

平成30年霜月
Vol.101

発行所

大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話: 058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去すべての紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

10月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

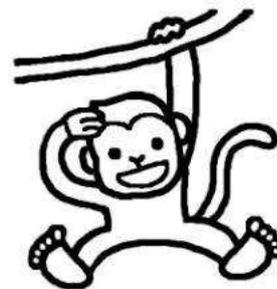
境内の庭木の剪定をしていただきました

10月はじめに一週間ほど庭師さんに境内の木々を剪定していただきました。
毎年開山忌にお客様をお招きする前には庭師さんをお願いしています。

今年も書院の中庭の木々、そして本堂前の木々、
鐘楼の脇の大きな金木犀と垣根を手際よく整えてくださいました。
また池の脇の金木犀の垣根も乱れつつあったのでお願いしました。



庭師さんは秋からお正月までお忙しいようなので、お正月過ぎてから
またお越しいただき、今度は松大門の大きなヒノキの剪定をお願いする予
定です。年に一回ハサミを入れると、やはり庭木も気持ちよさそうです。
ありがとうございました。



冬の托鉢のお願い

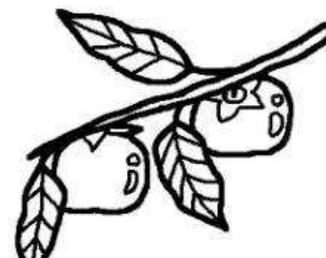
ここ大智寺は臨済宗のお寺ですが、仏教にはその他様々な宗派がありま
す。三輪・藍川地区のご近所の寺院が宗派を越えて一緒に活動する「報
聖会」では、毎年2回托鉢を行っています。

今月27日から29日までの3日間は冬の托鉢を行います。



大智寺付近は11月29日（木）の予定です。
9：00に三輪・門屋地区から始まり岩・西山・出屋敷地区へ進み、
10：45頃北野地区を回ります。

托鉢で集まった浄財は、歳末たすけあい募金や
檀信徒大会に使わせていただきます。
托鉢は、数人ずつ分かれて行います。
どうぞよろしくお願ひします。



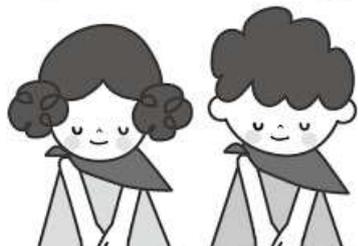
開山五百年遠忌、無事行われました ありがとうございました

10月30日、
大智寺を開かれた開山様の500年遠忌を執り行いました。
今回は、お檀家様にもお忙しい中御足労いただき
ご一緒にお祝いすることができました。
本当にありがとうございました。



当日は、少し肌寒い朝となりましたがお天気に恵まれ、本堂正面には門幕をかけ、
おめでたい雰囲気になりました。本堂の正面には歴代の和尚様方のお姿を描いた掛け軸を掛け、
正面に開山様をお祀りしました。

あ り が と う



また大玄関から本堂までの部屋には、
開山様直筆のお手紙を掛け軸に仕立てたものを2本かけ、
皆様にご覧いただくことができました。

そんなしつらえの中、厳かに法要が営まれ、
ご一緒に開山様のお導きに手を合わせることができました。
また、法要後は本堂中が和やかな笑顔に包まれ、
心ばかりのお食事を召し上がっていただくことができました。
皆様本当にありがとうございました。
今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより

49

「 仏の姿にかかわらねば 心ひとつを改めて 」

今月は、あちらの山もこちら山も美しい紅葉の時期を迎えます。
紅葉狩りにお出かけの方も多いのではないのでしょうか。

葉は、夏の猛暑や台風の風雨に耐え、陽の光を養分にして、ひたすら樹木に送り込みます。
ところが、朝夕の気温が下がってくると、樹木が長い冬を乗り越えられるよう、
葉は養分をすべて幹に残して、自らの葉緑素を壊してしまいます。
そうすることで葉の緑色が消えて赤い色に代わり、美しく紅葉します。

モミジの葉一枚が、もし自分だったらどうでしょうか。
自分でため込んだ栄養を自分の手の内に握り込んだまま、頑なに生きていたら、
きっと自分だけ紅葉することなく緑の葉のままでしょう。
緑の葉は凡夫の姿、赤い葉は仏の姿、どちらも同じ葉、どちらも同じ人間の姿です。
自分の心ひとつを改めることによって、葉は緑から赤に変わり、凡夫は仏に変わります。

「自分が自分が」という気持ちを「他のためみんなのため」という気持ちに切り替えていく、
そんな紅葉の教えに耳を傾けていくと、万物自然はみんな支え合い、つながって生きているのだという、
仏様の世界が見えてきます。

今月のひょうじ

秋も深まる中、皆様いかがお過ごしでしょうか。静かにお寺の中で掃除をしていると、障子の棧のほこりを払うかすかな音も際立って聞こえてきます。夏の間は大きなセミの声にかき消されていた自分の音が、秋になってガサツなまま浮き彫りにされているようで、恥ずかしい気持ちになります。

「両手を打てば音が鳴る、では片手の音はどんな音が聞いてみよ」これは有名な白隠禅師の禅公案です。自分という存在そのものが片手なのだと思いつくと、他のどんな存在ももう一方の片手になります。自分がいてスリッパを履けばそこに音が生まれ、自分がいてほうきを持てばそこに音が生まれます。

この公案を念頭にすると、包丁でトントンと野菜を切る音、雑巾をしぼる音、戸を開け閉めする音、字を書く音、普段は気にしない自分の音を意識して聞くようになります。音を出す限りは心地よい音でありたい、そう考えているうちにいつしか黙々と一挙手一投足に集中している自分に「はっ」と気付きます。

音はウソをつきません。喜びや悲しみ、怒りや焦り、その人のたてる音を聞けば伝わってきます。そんな自分のたてる雑音を消して、包丁に出会えば包丁になりきり、雑巾に出会えば雑巾になりきる、何にでもなりきれる七変化の片手を持つてば、もっと色々な音を楽しむことができるのかもしれない。自分の音を整えていけば、心も整ってくるのではと願いつつ、独り掃除をする日々です。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

アツアツをご飯とともに 揚げ出し豆腐

- ① 豆腐1丁を4つに切って重しをのせ、水切りをしておく。
- ② 片栗粉をまんべんなく豆腐にまぶす。
- ③ フライパンに油を多めにいれて、揚げ焼きにする。
- ④ めんつゆを使って好みの出しつゆにし、アツアツの揚げだし豆腐にかける。

肌寒い日のおかずにぴったりです。ついでに冷蔵庫にある野菜も揚げて、大根おろしや生姜をのせていただきます。
夏は冷やっこ、冬は揚げ出し豆腐、お豆腐最高ですね。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

11月25日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

10月写経会 備忘録

今回は写経会が開山五百年遠忌直前であったこともあり、お写経後は本堂の正面にかけられた掛け軸の話となりました。普段めったに掛けない歴代和尚様の頂相もあり、皆様興味津々な様子でした。その後、黒豆の入ったお菓子とともに抹茶でご一服いただきました。来月は紅葉の中での写経会になればと願っています。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人

第二十話 「尼僧第一号 パティさん」



お釈迦様の生母マーヤさんは、産後7日に亡くなりました。そのあと、お釈迦様(シッダールタ王子)を育てたのはマハーパジャーパーティさんでした。パティさんはマーヤさんの妹です。シッダールタ王子はパティさんのもとですくすくと育っていきませんが、ついに王子はすべてを捨てて修行の旅へと出てしまいます。

さて、王子がお城を出て6年、王子はブッタと呼ばれ、その名はインド北部にとどろきました。ある年、お釈迦様は生まれ故郷のお城にも布教にいらっしゃいました。パティは大喜びで法話を聞き、たちまち信者になりました。お釈迦様は数日で旅立たれましたが、その時お釈迦様の実子ラーフラやパティさんの実子ナンダも出家してついていきました。またしばらくして、大王もお亡くなりになり、パティは悲しみのどん底に落ち込みました。「お釈迦様のような安らかな心を得たい」と願うものの、当時女性の出家は許されませんでした。それでもお釈迦様の妻ヤショーダラさんも誘って髪を切り、お釈迦様のもとへ旅立ちました。

500キロ近く歩き通し、やっとの思いでたどり着いた時には足は腫れ上がり、サリーは泥にまみれ、哀れというより壮絶な様相でしたが、なかなかお釈迦様より出家のお許しが出ません。女性の出家者が出ることで教団が乱れることを心配されたようですが、侍者のアーナンダが粘り強くお釈迦様を説得し続けました。そしてついに「女性も最高の悟りを得ることができる」という言葉を引き出し、女性出家が許されました。パティさんは尼僧第一号となったのです。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。